

# 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指して

## ▶えちご上越米の販売戦略

### ●家庭用から業務用まで、主食用米の独自品ぞろえ

- ◎地域特性に合ったこだわりの「コシヒカリ」
- ◎値ごろ感があり、安定した需要を持つ「こしいぶき」
- ◎冷めてもおいしい、安定品質と良食味の「みずほの輝き」
- ◎弁当・おにぎり用として需要が高まる「つきあかり」 など



JAえちご上越は県内のどこよりも作付品種数が多く、全国の取引先からの多様な需要に対応できることを強みにして、販売拡大や販路開拓に取り組んでいます。

### ●契約栽培で農業所得の安定確保へ

- ①「コシヒカリ」「こしいぶき」「みずほの輝き」「つきあかり」の複数年契約栽培を推進し、農家が安定した農業所得を確保できるよう努めています。
- ②もち米や酒米でも、県内取引先との契約栽培を進めています。

### ●水田活用米穀を含めた多様な需要への対応

一定の手取水準を確保した多様な需要に応じた「水田活用米穀」の複数年契約栽培を拡大させる計画です。

## ▶土づくりで品質向上・収量安定へ

令和元年の異常高温による品質と収量の低下を受け、2年度は気象変動に負けない米づくりを推進。ケイ酸資材を積極的に活用した土づくりに向け、JAでは資材の購入助成を実施しました。

令和2年度産米用土づくり資材の活用助成(令和元年9月1日～令和2年6月30日実施)

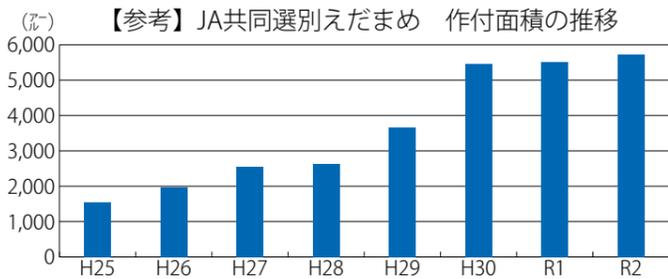
■助成単価:300円/袋 ■助成合計金額:15,824,400円  
**■ケイ酸資材の供給実績:60,218,410円[前年対比 約147.7% ※R元 40,760,195円]**

品質向上・収量安定に向けて土づくりに意識が高まり、ケイ酸資材の利用が大きく増加しました。

※ケイ酸資材は、えちご上越ソイル元気、越後の輝きソイル米スター、スーパーシリカプレミアムなど。

## ▶園芸振興に向けた土台づくり

年間販売額1億円の産地をつくろうと、えだまめを中心とした園芸重点品目の面積拡大と販売・取引力の強化を図っています。園芸拠点集出荷施設では、えだまめやアスパラガス、ピーマンなどの選別作業を代行し、農家の生産拡大をサポートしています。



## ▶支店別農業振興計画



▲ゴボウの試験栽培。(三和支店)



▲スマート農業技術の実演。(有田支店)

地域の実情を踏まえ、支店ごとに農業振興計画を策定し、農家とともに課題解決を図っています。令和2年度は、スマート農業技術の研究、土地柄に合った園芸品目の導入・拡大(ピーマン、ゴボウなど)、鳥獣被害対策、栽培・収穫体験事業などを実施しました。

地域になくてもならない存在であるために



# JA自己改革実践報告

JAえちご上越では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の基本目標の達成に向け、自己改革に取り組んでいます。令和2年度の事業・活動を中心に、自己改革の実践状況を報告します。

## 「地域の活性化」を目指して

### ▶「無印良品 直江津」とあるるん畑が連携

上越地域の魅力を発信!

令和2年7月にオープンした「無印良品 直江津」には、あるるん畑と連携して地場産品の魅力を発信する「なおえつ良品市場」が設置されています。旬の野菜や米、農産加工品などを取り扱い、上越産の販売拡大や新規客層の獲得を目指しています。



### ▶支店協同活動

支店を中心に、地域からの要望を取り入れた活動を実施しています。令和2年度は新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら地域の美化活動や地場産品の直売イベント、小・中学生を対象とした食農教育などに取り組まれました。



▲小学生が伝統野菜の栽培に挑戦。(浦川原支店)



▲地場産野菜の即売イベント。(和田支店)



▲支店・施設職員らによる美化活動。(安塚支店)

### ▶地域福祉の一助に

令和2年度の新採用職員が農業実習で生産した「新米の新米(つきあかり)」120kgを、「フードバンクじょうえつ」に寄贈しました。フードバンクじょうえつは、児童養護施設や福祉施設、こども食堂などに食料提供を行い、食品ロス削減に取り組んでいます。

JAでは今後も安全・安心な食の提供と、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献していきます。



生産の苦勞や喜びを知るため、通年で農業実習を行っています。



▲目録を手渡す笹原茂会長(右)。